

修士論文（要旨）

2016年1月

ネガティブフィードバック後の状態自尊感情の変化

指導 鈴木 平 教授

心理学研究科  
健康心理学専攻  
214J4056  
吉村真実

Master's Thesis (Abstract)

January 2016

Changes in State Self-Esteem after Negative Feedback

Mami Yoshimura

214J4056

Master's Program in Health Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor : Taira Suzuki

## 目次

問題提起と目的	1
方法	1
実験協力者のスクリーニング	
測度	
結果	1
スクリーニング調査時の基礎データ	
実験の結果	
心理尺度について	
指尖脈波	
考察	2
引用文献	

## 序論 問題提起

近年、子ども達の自尊心の低下が問題視されており、小学校では自尊心向上のための取り組みが行なわれている。

## 第1章 先行研究

自尊心は自分自身を価値あるものだと考えられ、自らの重要性を実感できる場合にのみ意欲的で積極的になれる、心理的な充実感を持つ。特性自尊心の低い人は高い人と比較して失敗経験により、状態気分と状態自尊心により大きな影響を及ぼす事が明らかにされた(Hames & Joiner, 2012)。

特性自尊心の高い人は課題に対してストレス反応を強く認知し、心拍数や交感神経が増加する。特性自尊心の低い人はストレスに対する適応反応としてネガティブな気分を喚起する事を報告している(甲斐・矢島, 2012)。脈波に関する研究では、鬱や精神疾患患者では LLE が低下する事が知られており、脈波の揺らぎが大きい方が健康的であると報告されている(鈴木, 2015)。

## 第2章 実験研究

### 1. 目的

心理テストや生理学的データから、ネガティブフィードバックによる状態気分や状態自尊心の変化を検討する。

#### 仮説 1

特性自尊心の低い人は、ネガティブフィードバックに対して状態自尊心により大きな影響を受ける。ネガティブフィードバック提示前よりも提示後の方が状態自尊心尺度の得点は減少する。また、ポジティブな心理状態は有意に低下し、抑鬱感等のネガティブな心理状態は有意に増加する。

#### 仮説 2

ネガティブフィードバック提示後に外的統制の高い人は低い人と比較して、PANAS ポジティブ情動因子や POMS 活気、状態自尊心が大きく低下する。逆に内的統制が高い人は低い人と比べて PANAS ネガティブ情動因子や POMS 抑うつ・落ち込み、状態自尊心が大きく増加する。

#### 仮説 3

指尖脈波において、ネガティブフィードバック提示後の方が LLE は低下する。

### 2. 方法

#### 2.1 実験協力者のスクリーニング

##### 調査協力者

東京都内の 2 大学の学生 626 名。自尊心尺度得点が平均±1SD 以上の学生を実験協力者候補として抽出し、協力許可を頂けた 28 名を実験対象者とした。

## 2.2 実験の方法

用いる測度は自尊感情尺度(桜井, 2000)、Locus of Control 尺度(鎌原・樋口・清水, 1982)、日本語版 PANAS(佐藤・安田, 2001)、POMS 短縮版(横山, 2005)、状態自尊感情尺度(阿部・今野, 2007)、指尖脈波の測定、実験課題、ネガティブフィードバックである。

教示内容は、「先程〇〇さんに行なって頂いた課題を、事前に桜美林生(もしくは東京都内の大学生)52名に解いてもらいました。この課題は50点満点になりますが、採点したところ〇〇さんの得点は14点でした。この点数は、桜美林生(もしくは東京都内の大学生)の平均点25.5点より、10点以上低かったこととなります。」である。

## 3. 結果

### 3.1 スクリーニング調査時の基礎データと分散分析

自尊感情尺度得点が  $24.43 \pm 5.57$ 、LOC 尺度 E 項目得点が  $22.39 \pm 3.84$ 、I 項目得点が  $24.80 \pm 4.43$  であった。相関分析の結果、自尊感情尺度と E 項目得点で弱い負の相関( $r = -.21, p < .001$ )、自尊感情尺度と I 項目得点で中程度の正の相関( $r = .44, p < .001$ )、E 項目得点と I 項目得点で相関はなかった( $r = -.19, p < .001$ )。重回帰分析の結果より、特性自尊感情が高い人は内的統制が高く、特性自尊感情が低い人は外的統制が高い事がわかった( $R = .46, R^2 = .21$ ;  $F(2, 625) = 83.20, p < .001$ )。

E 項目得点の高群・低群について自尊感情尺度得点に対して t 検定を行なったところ、0.1%水準で E 項目得点低群の方が有意に高かった( $t(179) = -3.79, p < .001$ )。I 項目得点の高群・低群について自尊感情尺度得点に対して t 検定を行なったところ、0.1%水準で I 項目得点低群の方が有意に高かった( $t(191) = 9.52, p < .001$ )。

### 3.2 実験の結果

#### 3.2.1 心理尺度について

共分散分析結果、外的統制の高い人は PANAS ポジティブ情動因子( $F(1, 52) = 13.58, p < .001$ ;  $B = -.74, p < .001$ )や POMS 活気( $F(1, 52) = 27.94, p < .001$ ;  $B = -.52, p < .001$ )、状態自尊感情が大きく低下した( $F(1, 52) = 16.20, p < .001$ ;  $B = -1.01, p < .001$ )。内的統制の高い人は、状態自尊感情と POMS 抑うつ・落ち込みの低下は抑制されたが( $F(1, 52) = 34.12, p < .001$ ;  $B = 1.08, p < .001$ ) ( $F(1, 52) = 4.05, p < .05$ ;  $B = -.25, p < .05$ )、PANAS ネガティブ情動因子では変化が見られなかった( $F(1, 52) = .47, n.s.$ ;  $B = .19, n.s.$ )。

#### 3.2.2 指尖脈波

分散分析の結果、自律神経バランスに対し、特性自尊感情の高低の主効果( $F(1, 25) = 4.20, p < .10$ )、くり返しの主効果( $F(1, 25) = 4.75, p < .05$ )が確認された。LLEの平均( $F(1, 25) = 11.06, p < .01$ )とLLEの標準偏差( $F(1, 25) = 9.26, p < .01$ )に対して、くり返しの主効果のみ確認された。心拍数の平均に対して有意差は見られなかった。

#### 4. 考察

##### 仮説 1

特性自尊感情の低い人ではネガティブフィードバックにより状態自尊感情が低下した。状態気分に関してはポジティブ気分において有意であったが、ネガティブ気分において有意差は見られなかったため、必ずしも十分に支持されない結果となった。

##### 仮説 2

外的統制の高い人においては支持されたが、内的統制の高い人において支持されなかった。

##### 仮説 3

ネガティブフィードバックによって LLE が増加したため、支持されなかった。

##### 課題と展望

英国の教育社会学研究者は、自尊感情の高低の社会集団のバラツキを社会的不平等の問題として取り上げている。彼らにとって子どもの自尊感情は、子どもの精神的健康や適応の基盤であり、全ての子どもが適切な自尊感情を保持できるべきであると述べている(樋田, 2007)。特性自尊感情の高い人は低い人と比較して、心理的により健康面や満足度に一定の関係があるという報告もされている(Wood, Anthony, & Foddie, 2006)。日本の学校教育においても、全ての子どもが適切な自尊感情を形成・保持し、生涯健康に生活する事のできるよう、より一層健康教育を推進していく必要があるのではないか。

## 引用文献

- 阿部美帆・今野裕之 2007 状態自尊感情尺度の開発 パーソナリティ研究 16(1) pp.36-46.  
David Watson and Lee Anna Clark Auke Tellegen 1988 Development and Validation of Brief Measures of Positive and Negative Affect : The PANAS Scales *Journal of Personality and Social Psychology* 54(6), 1063-1070.
- 遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽 1992 セルフ・エステーム心理学 自己価値の探究 ナカニシヤ出版 pp.104-107., pp.200-201.
- 樋田大二郎 2007 学校教育と子どもの自尊感情 —社会の変化、教育政策から考える 児童心理 61(10) pp.902-907.
- 福永幹彦・田原孝 1998 精神と身体性の新しい関係性 カオスアトラクタが明らかにした生体のダイナミズム ぬれきてる第 69 号
- 石田弓・前田健一・品川由佳・兒玉憲一・岡本裕子・松下姫歌・大塚泰正 2008 ストレス脆弱性克服に挑む教育科学 —大学生におけるストレス脆弱性と自尊感情との関連— 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要第 7 巻
- Jennifer L. Hames and Thomas E. Joiner 2012 Resiliency Factors May Differ As a Function of Self-Esteem Level : Testing the Efficacy of Two Types of Positive Self-Statements Following a Laboratory Stressor. *Journal of Social and Clinical Psychology* 31(6) 641-662.
- Joanne V. Wood, Danu B. Anthony, and Walter F. Foddis 2006 Should People with Low Self-Esteem Strive for High Self-Esteem? Michael H. Kernis (Eds.) *Self-esteem issue and answer : A sourcebook of current perspectives* New York : Psychology Press 309-320.
- 甲斐みゆき・矢島潤平 2012 自尊感情の高低が実験室場面における心理生物学的ストレス反応に及ぼす影響 日本心理学会大会発表論文集第 76 号 p.684
- 鎌原雅彦・樋ロー辰・清水直治 1982 Locus of Control 尺度の作成と、信頼性、妥当性の検討 *Japanese Association of Educational Psychology* 30(4) pp.302-307.
- 桑原直史・森上幸夫・西迫成一郎 2000 自己統制感、自尊感情および不安が問題認識過程に及ぼす効果 —行動規範の決定過程に関する研究(1)— 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」第 14 号
- 中間玲子・小塩真司 2007 自尊感情の変動性における日常の出来事と自己の問題 福島大学研究年報第 3 号
- 桜井茂男 2000 ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討 *Bulletin of Tsukuba Developmental and Clinical Psychology* vol.12
- 鈴木平 2015 複雑系の方法論の可能性 —非線形力学から東洋の心理学へ— 日本理論心理学会第 61 回大会発表論文集 (シンポジウム)
- 豊田弘司 2014 随伴経験、統制の位置及び自尊感情の関係 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要第 23 号 pp.7-12.